

## 神殿でのイエス

ヨハネによる福音 2:13-25

ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた。そして、神殿の境内で牛や羊や鳩を売っている者たちと、座って両替をしている者たちを御覧になった。イエスは縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し、鳩を売る者たちに言われた。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない。」弟子たちは、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った。イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。

イエスは過越祭の間エルサレムにおられたが、そのなさったしるしを見て、多くの人がイエスの名を信じた。しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、人間についてだれからも証ししてもらう必要がなかったからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。

### 説教

きょうのテキスト、神殿で商売する商人たちを暴力で追い払うという記事は四つの福音書すべてに記録されています。このイエスらしからぬ行動を奇異

な聖書箇所として覚えている人も多いのではないのでしょうか。

<出来事の意味は？>

共感福音書ではこの記事はイエスの受難の直前の出来事として記録されていますが、ヨハネ福音では活動初期の出来事として記されています。最初の頃？最期の出来事？いったいどっちが本当なのでしょう。イエスについての記録は福音書以外にはないので、福音書から推定するしかないのですが、大方の見方としては受難直前の出来事だったのだろうということになっています。その背景には神殿で大暴れしているのだから、とうぜん当局・権力者たちに睨まれないはずはないという理解があるようです。にらまれたら最期、イエスは自由な宣教活動ができなかったらという判断です。だからイエス宣教の最期の時期の出来事だった、というわけです。この出来事の時期はいつか？という問題もありますが、きょうは、この商人追い払い事件の意味とはなんだったのかを福音に聞いていきましょう。

<イエスは悪人か>

エルサレムの神殿で「縄で鞭を作り、羊や牛をすべて境内から追い出し、両替人の金をまき散らし、その台を倒し」たりしたら逮捕されるのではなか、と考えるのが普通です。誰もがこれは悪いことだと思うからです。でもイエスはその人らしからぬことをやった、平たくいえば悪人イエスです、その意味を受け取るにはどう理解したらいいのか？

**弟子たちは、「あなたの家を守る熱意がわたしを食い尽くす」と書いてあるのを思い出した。17節**

これ「あなたの家を守る…」は詩篇 69：10からの引用で、69編は

【指揮者によって。「ゆり」に合わせて。ダビデの詩。】

と見出しのついた「敵対者からの解放（つまり迫害追求されているダビデの状況からの解放）を神に懇願するダビデの悲しくも美しい詩です。

弟子たちはこのダビデの詩を思い出し、イエスの行動を理解したようです。弟子たちはイエスが一人で神殿で暴れているのを傍観していたのか、それともあとで（受難、復活したあと）このように思い出したのかよく状況はわかりませんが、ヨハネは「書いてあるのを思い出した」と記録しています。つづいて神殿を三日で立て直すというイエスの宣言があり、これに関しては弟子たちは復活後に思い出したとはっきりと記しています。（22節参照）このあとも23節から25節になぞめいた民衆とイエスの心理の描写があります。民衆はイエスの神殿での暴力行為を好意的に受け止めたがイエスはその民衆の友好的な姿勢を信用しなかったという記録です。これは同じような内容が共観福音書にも書かれています。民衆はイエスに好意的で、権力者たちは敵対的であったという事情です。

<肅清？それとも預言>

さて、この神殿での出来事は「宮清め」と呼ばれることがあります。イエスが神殿の不正行為を肅清したという意味合いでそう呼ばれています。わたしは今回ヨハネ福音書からこの出来事を聞いていて、これは肅清ではなく預言ではないかと思いつきました。

**「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」19節**

わたしはいままでは、神殿が壊れたら三日で立て直すと言う、三日のほう（死んで甦る期間）に気をとられていました。またその後に「イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである」とあるので古い神殿礼拝を否定して新しい礼拝への移行を語っているのかと理解していました。これはこれで間違っていないでしょうが、**この神殿を壊してみよ**、の意味を神殿崩壊の預言受け取ることもできます。

歴史上、エルサレム神殿は西暦70年ごろにローマ軍によって滅ぼされています。イエスが神殿で暴れたのは神殿崩壊を預言するための行為、デモンストレーション（目立つためにやったこと）だったと理解することもできます。このと

きイエスは預言者イエスとして振舞ったということです。

### <世界を変える方法>

預言者は神からことばを与えられ、それをいろいろな方法で人々に伝えます。そしてたいてい「神のことば」は人々にとって心地よいものではなく、嫌なことであることが多く、それを伝える預言者は迫害される、ときには殺されるという歴史がイスラエルにはありました。旧約聖書にでてくる預言者の末路はたいてい悲惨です。

ちょっとぐらいイエスが神殿で暴れたところで、現実の神殿は清められることはなく、神殿貴族と呼ばれている支配者達がそれで心変わりするとも思えません。暴力では世の中を変える事はできません。イエスの神殿での行為は暴力行為ですが、それは小さな暴力、つまり「縄で鞭を作」ったていどのものです。ではおおきな暴力を行使すれば変化は望めるのか、現実にはどうでしょう。歴史的にはどうでしょう。

ローマは再三のユダヤ人の反乱行為に対してついに大軍をエルサレムに侵攻させエルサレム神殿を壊し、2000年近くたついまもエルサレムの神殿は再建されていません。暴力で神殿は崩壊することは可能で、いろいろな条件や歴史的にみて偶然があればその状態を継続することはできるようです。ではローマ軍の軍事力で世の中は変わったのか、よくなったのか、救われたのか。**「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」**

イエスはこう預言しています。そしてイエスは受難後三日で甦り、この預言を実現しました。ただその神殿とは、人の目に映る豪華で華麗そして巨大な神殿ではなく、心の中に建てられる神殿です。

**しかし、イエス御自身は彼らを信用されなかった。それは、すべての人のことを知っておられ、人間についてだれからも証ししてもらう必要がなかったからである。イエスは、何が人間の心の中にあるかをよく知っておられたのである。2:24-25**

ヨハネはこの神殿での出来事をこのように結んでいます。

<さいごに>

いつのまにかキリスト教は大きな礼拝堂をもつようになり、大きいだけではなく華麗で豪華な礼拝堂を誇るようになりました。これを素直に捉えれば人々の心の中にある想いが立派な礼拝堂に結晶したといえるのでしょうか。しかし、その反面にはキリスト教が権力と結びついて外面を整えることに夢中になっているといえます。建造物は権力者が建てるものです。建築と権力は親和するものです。

ヨハネの福音がいうイエスが知っていた「人の心の中にあるもの」とはなにか、わたしたち一人ひとりに問いかけています。

-----